山科本願寺跡発掘調査現地公開資料

2011年２月18日

調　査　地：京都市山科区西野山階町地内

調査期間：2011年１月11日～2011年２月下旬（予定）

調査主体：財団法人京都市埋蔵文化財研究所

遺跡の概要

山科本願寺は、文明10年（1478)、浄土真宗中興の祖・蓮如上人により造営が開始されました。寺域は堀と土塁で囲まれ、主要堂舎の立ち並ぶ「御本寺」、有力末寺の坊舎のある「内寺内」、門徒の居住区のある「外寺内」の三つの郭で構成され、壮大な規模を誇っていました。寺内町の経済的な発展にも支えられ、将軍家や有力武家をしのぐほど繁栄しましたが、天文元年（1532）に管領細川晴元率いる近江守護職六角定頼と法華宗・延暦寺の連合軍によって攻撃され、焼け落ちました。

今回の調査は、山科本願寺跡の15次調査になります。当地が「御本寺」の中心部に近い場所にあたることから、遺構の有無を確認するための調査を行っています。

見つかった遺構

今回の調査では、調査区全体で、整地された山科本願寺の存続した時期の生活面が良好な状態で残存していることが明らかとなりました。

調査区南側では、**溝１**と**溝２**に挟まれた東西方向の通路状遺構が見つかりました。非常に固くたたき締められ土間状（三和土）になっています。中央に並行する**柱列１**と**柱列２**があり、上面は焼土層で覆われていたことから、屋根の付いた廊下状の施設がここにあったと推測されます。溝２に取り付く**集石１**と**集石２**には拳大の石が詰められており、排水のための施設と考えられます。

調査区の東側と北側は、人工的な盛土により生活面が一段高くなっていました。東側では焼土層の堆積と柱穴が確認でき、北側では焼土で埋まる**溝３**や多数の**柱穴群**、**柱列３**、縁に石が並べられた**土坑１**などが見つかりました。柱穴の規模が小さく、柱の間隔も狭いことから小規模な建物が存在していたと考えられます。

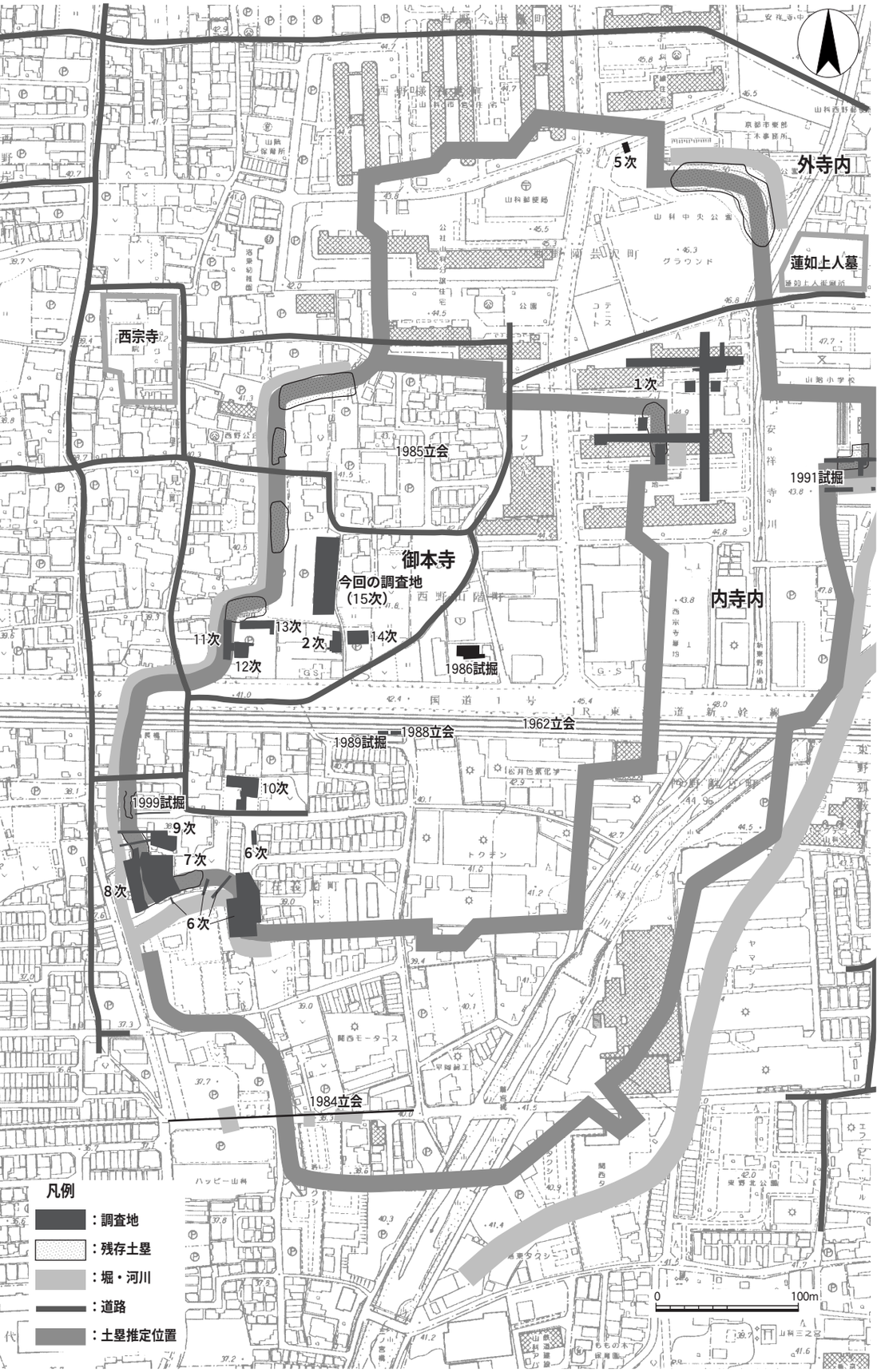
まとめ

本調査地の南東で2005年に実施した14次調査では、焼き打ちを物語る焼土層とともに高級な輸入陶磁器や漆芸品が多数出土し、本願寺にとって重要な施設が存在したと推測されます。また、本調査地の南西で2005年に実施した13次調査では、庭園遺構が見つかっています。今回見つかった通路状遺構はそうした施設をつなぐためのものと考えられます。

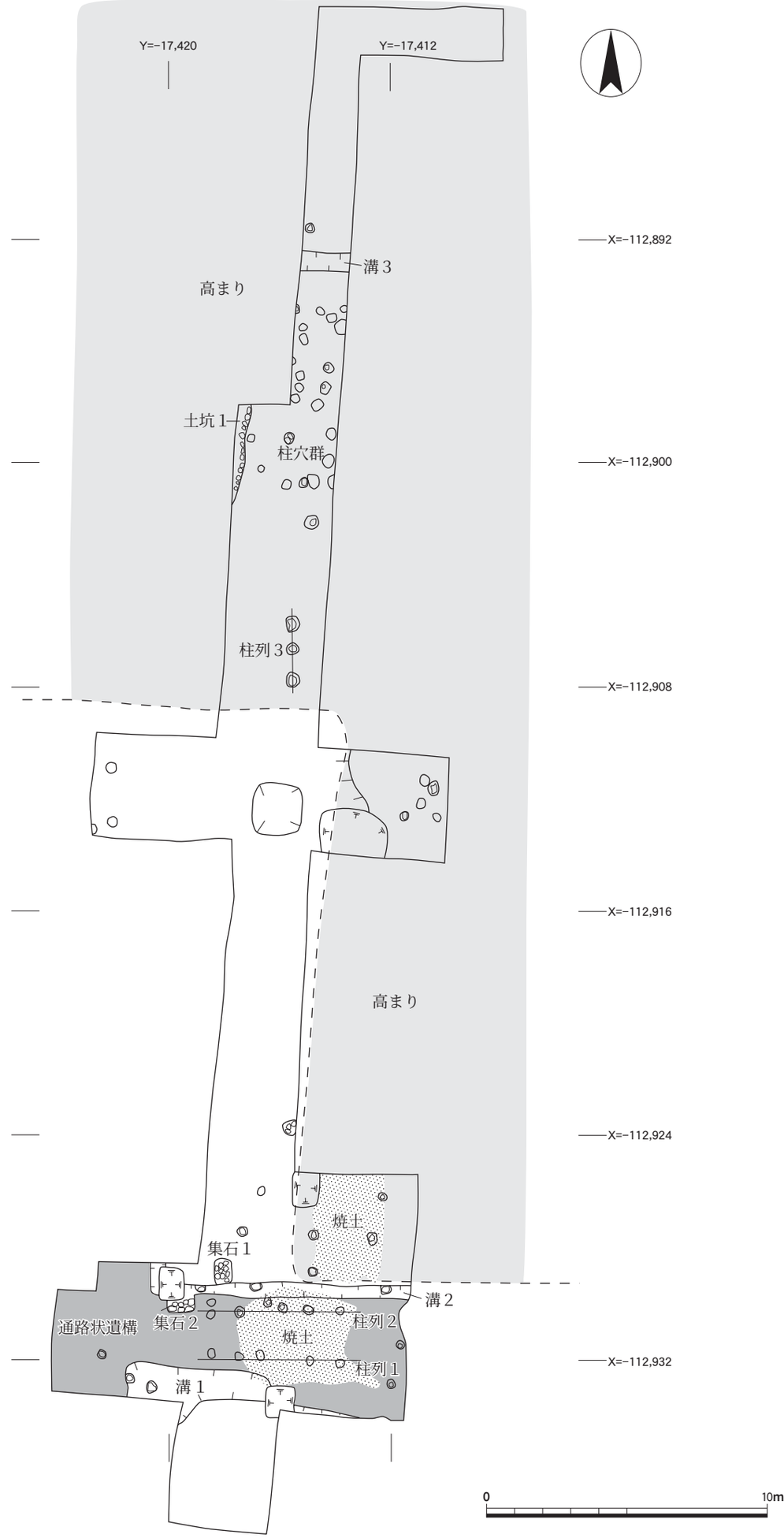
さらに今回、調査地の東側から北側にかけて、地面が一段高くなっていることが明らかになりました。阿弥陀堂や御影堂は、「御本寺」内でも最も地盤の安定した場所に築かれたと推測されることから、近隣にこれらの堂舎が存在した可能性が高まりました。今回見つかった遺構から推測される小規模な建物は、これに付随する施設であった可能性があります。

山科本願寺略年表

応永22年（1415）		本願寺七世存如の嫡子として蓮如が生まれる。
長禄元年（1457）		蓮如、本願寺八世宗主となる。
文明３年（1471）		蓮如、越前（現：福井県）吉崎に坊舎を構える。
７年（1475）		蓮如、越前吉崎御坊を去る。
９年（1477）		応仁、文明の乱一応終わる。
10年（1478）	１月	蓮如、野村柴の庵に居す。馬屋新造。 **山科本願寺の造営始まる。**
11年（1479）	１月	整地と作庭を始める。
	３月	向所を新造。
	４月	堺の古坊を移し、寝殿を造りはじめる。
	８月	庭ができる。
	12月	御影堂建設用材柱50余本などが山科に到着する。
12年（1480）	１月	三帖敷の小御堂を作る。
	２月	御影堂造作事始め。
	３月	御影堂、棟上の祝。
	８月	ひわだ大工をよんで御影堂の檜皮を葺きはじめる。 仮仏壇を設けて、絵像の御影をうつす。 整地。
	11月	大津にあった根本御影を野村にうつし、山科ではじめて報恩講を催す。
	12月	吉野で阿弥陀堂用大柱20余本をあつらえる。
13年（1481）	１月	寝殿の大門の柱が立つ。
	２月	阿弥陀堂の事始め。
	４月	阿弥陀堂棟上。
	６月	仮仏壇をつくって、本尊を据える。
14年（1482）	１月	御影堂大門の事始め。 阿弥陀堂の橋隠の柱を用意。 阿弥陀堂の四方の柱も立つ。 大門の地形をならす。 四壁の内に排水用の小堀を南北に掘る。 門前の両所に橋をかける。
	４月	冬のたき火所だった四門の小棟を改築。
	５月	寝殿の天井をはる。
	６月	阿弥陀堂の仏壇をつくりなおす。
	７月	仏壇に奈良塗師を雇って塗らせる。
	９月	仏壇塗り終わる。
15年（1483）	５月	河内誉田の野中之馬という瓦師をよんで、大葺屋をつくり、西山の土で瓦を焼く。
	８月	阿弥陀堂瓦葺き終わる。
長享２年（1488）		加賀一向一揆起こる。
延徳元年（1489）		山科南殿を造営する。
明応６年（1497）		大坂石山坊舎造営。
８年（1499）	２月20日	大坂から蓮如が山科南殿に戻る。
	３月25日	蓮如没す、85歳。
大永５年（1525）		九世宗主実如没す。証如、十世宗主となる。
天文元年（1532）	８月24日	**法華宗・延暦寺・六角氏の攻撃により焼亡。山科本願寺陥落。**
２年（1533）		証如、石山坊舎を本寺と定める。本願寺大坂へ移転。
５年（1536）	７月	天文法華の乱。
元亀元年（1570）		織田信長との石山合戦開始。
天正８年（1580）		本願寺顕如、信長と和睦。石山本願寺退去。 その後、本願寺が紀伊鷺森・泉貝塚・大坂天満と移転を繰り返す。
14年（1586）		豊臣秀吉の朱印状をもって山科に寺領を回復する。
19年（1591）		本願寺、京都七条堀川（現西本願寺）へ移転。
慶長７年（1602）		東本願寺別立。このときから東・西本願寺となる。
享保年間（1716～1736）		東・西本願寺がそれぞれ山科別院を建立。



既往調査位置図（1：4,000）



遺構平面図（1：200）